

令和5年度 府中市立府中第六小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）  
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを書いたり、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>話し合いの時に、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んだ内容をもとに、自分の考えをノートにまとめる活動を多く取り入れる。また、交流を通して考えを広げたり深めたりする場面を意図的に設定する。</li> <li>どんな質問をすれば自分が聞きたい情報を聞いたり、相手が伝えたい内容をより深く理解できたりするかを考えながら話し合い活動に取り組むよう指導する。</li> </ul>		
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>組み合わせを考える際、重なりがないようにする作業を忘れがちである。</li> <li>文章問題において求めるものが単位量あたりの大きさ、いくつ分、全部の大きさのどれなのかを把握しないまま立式して誤答することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並び方を求める問題か組み合わせを求める問題かを判断する時間を設けた上で、組み合わせの場合には樹形図や表で重なりを消す作業を忘れないよう繰り返し指導をする。</li> <li>問題場面を数直線や面積図、4マス関係図などの図に表す時間を設けたうえで立式に移る。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想から検証するための実験方法を考えたり、結果から考察したりするに、差がある。</li> <li>単元を通して、実験で検証した内容をつなげて考えたり、知識として身に付けたりすることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験方法の考え方のヒントになるものを提示したり、既習事項を確認させたりすることで、自分で考えられるように指導していく。ノートの書き方も指導する。</li> <li>単元のつながりを意識して授業を組み立てたり、授業中に復習をして知識を定着させたりしていく。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>用語や語句に関して、表面的な知識の習得で終わってしまうことが多い。</li> <li>過去とのつながりを意識して考えたり、友達の意見から自分の考えを変えたり、深めたりすることに苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物と関わりの深い事件や政策について過去の事象と比べながら考えたり、その都度その事象が起こった意味を考えたりする活動を取り入れるようにする。また、複数の資料を関連付けながら読み取り、自分の言葉で表現する活動を繰り返す。</li> <li>事象に対しての考えを友達と交流し、自分の考えを見直したり、深めたりできるようにする。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞では、音楽的な要素と感じたことを結び付けて考えることが苦手な児童が多く、どちらかに偏っている。</li> <li>歌唱活動で自信をもって歌うことができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞の活動だけでなく、歌唱や器楽、音楽づくりの時にも、音楽の要素によって、どのように感じたのかを考えるようにする。</li> <li>声による表現の楽しさを音楽づくりの活動を通して、感じられるようにする。</li> </ul>		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>決められたことが終わったら活動も終わりとしてしまい、表現を深めることがもう一歩である。</li> <li>色については絵の具などの用具を活用できる幅が広いが、形についてイメージを広げることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の選択肢を増やすような声掛けや材料・用具の選定を行う。</li> <li>アートカードなどを活用し、形と色など視点を整理して考えることができるような活動を取り入れる。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作では、簡単にできればよいと考え、色・形などの工夫があまりできない児童がいる。</li> <li>調理でも製作でも技能面での差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな色の糸や布、様々な見本を用意し、工夫を促す。</li> <li>個別で対応していく。視覚的な資料や板書の工夫で、知識を補いながら、友達同士で教え合う活動を通して、技能の習得を図る。</li> </ul>		
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の質を高めるために自ら取り組み方を工夫する姿勢が足りない。</li> <li>何を学んでいるか分かっていないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の序盤に評価の方針を伝えて、取り組み方の工夫を求めるようにする。また、取り組みを工夫している児童を意図的に取り上げて全体に価値付ける。</li> <li>学習のめあてに立ち戻れるよう声をかける。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習表現を書き写して文を作ることはできるが、単語を変えたり付け加えたりして、自分の思いや考えを伝えようとする力が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見や考えを共有する時間を設け、比較させたり付け加えをさせたりながら、表現方法を広げていく。</li> <li>帯活動で既習単語を復習する時間を設け、使える語彙を増やし、表現力をつける。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。